

しもすわフォトストーリー まちの話題を写真でご紹介します。



11/14 (火) 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けドイツが視察 合宿地誘致へ

ドイツボート協会のスポーツディレクターマリオ・ヴォルト氏が2020年東京オリンピック・パラリンピックボート競技事前合宿地候補として、町漕艇場を視察に訪れました。

ドイツは当町の他に茨城県と兵庫県の漕艇場にも視察し、年度内には合宿地を選定する予定。

合宿地には2020年7月に選手団およそ80人が約2週間滞在する予定です。

11/15 (水) 秋宮スケートリンクが描かれた絵画 (株)荻原製作所から町に寄贈

株式会社荻原製作所の創業70周年記念として、大正・昭和に活躍した洋画家、金山平三の絵画「氷^{かなやまへいそ}江^{ごおりすべ}り」を町に寄贈していただきました。

「氷江り」は、1917年に第11回文展で特選第一席に選ばれた大作で、日が傾く中、秋宮リンクでスケートを楽しむ人々の姿が描かれています。



11/20 (月) 「下諏訪桜いっぱいにする会」活動に終符 会の残金を町に寄附

32年続いた「下諏訪桜いっぱいにする会」が解散することになり、この度同会の残金109万円を町に寄附していただきました。

同会は1985年に発足以来、諏訪湖畔や公共施設など町内各所に植樹活動を行ってきましたが、近年は活動の休止状態が続いていました。

寄附いただいたお金は公園等の緑化などに役立たせていただく予定です。

11/22 (水) 日本ボート協会 町漕艇場を視察

日本ボート協会の長畑強化委員長が、ボート日本代表の強化合宿の候補地として町漕艇場を視察に訪れました。

町職員からの説明を受け、長畑強化委員長からは、“諏訪湖はビル等の障害物がなく、吹き抜けになっているため、平等なレースを開催できるという観点から非常に良い環境”と評価いただきました。





12/1 (金) 「ホシスメバ」旧労災リハビリテーション長野作業所 リノベーションツアー開始

星が丘の旧労災リハビリテーション長野作業所（ホシスメバ）を改修（リノベーション）するモニターツアーが始まりました。第1回目は首都圏の方を中心に男女6名の方が参加。壁のペンキ塗りや古材を使った床張りなどの作業が、専門家の指導のもと和やかに行われました。ツアーではほかにも町内のゲストハウスなどで地元の方も交えた、交流会も行われました。

今後町への移住を検討する方に住んでいただけるよう、年度内に共用のキッチン、トイレなどを整備する予定です。

12/4 (月) 第4・6・10区 地区防災計画策定

今年度町内の第4・6・10区の3地区において地区防災計画が完成し、昨年までの5地区（1、2、5、7、9区）と合わせ町内8地区で防災計画が完成しました。

実際に現場に行き危険箇所を確認したり、過去に土砂崩れなどが起きた場所を書き込んだり、また昔から住んでいる方の知識を盛り込んだ地区防災マップを作成しました。

来年度は、3・8区が作成する予定です。



12/6 (水) 町長に直接質問 南小6年生校舎改築から政治を学ぶ

南小学校6年生106人は、2015年に完成した南小校舎建設の経過などを事前に授業で学習を進めてきており、今回青木町長を授業に招き、学習した中での疑問をぶつけました。

児童からは、経費はどのように捻出したか、反対した人はいなかったのか、など様々な質問がでました。町長は、事前に積み立てた基金や国の補助金、地方債を費用に充てたことや時間をかけ丁寧に説明をしたことで反対する人はいなかったなどと回答。

児童は自身の学習する校舎の建築経過を学ぶことを通して政治への学習を深めました。

12/21 (木) 社中で日本オリンピック委員会 (JOC) のオリンピック教室 仲間への思いやりを大切に

日本オリンピック委員会（JOC）による「オリンピック教室」が社中で行われました。講師に元女子スピードスケート五輪代表、三宮恵利子さんを迎え、社中2年生約40人が受講しました。

まず、グループに分かれ大縄跳びに挑戦。グループでの話し合いの場を多く設け、跳ぶ回数を増やす方法を工夫しながら競い合いました。

その後座学も行われ、三宮さんが現役時代の経験を話しながら、オリンピックの精神や価値について説明。三宮さんは、「仲間への思いやりを忘れずに、今日のことを今後少しでも生かしてくれると嬉しい。」と話しました。

